

大阪公立大学 共用研究機器センター（OShaRE） 実施報告書

研究基盤シンポジウム

「OMU研究基盤の現在地と未来」ー共用機器と産学官連携が拓く次世代研究環境ー

【開催概要】

- ▶ 主催：大阪公立大学 共用研究機器センター（OShaRE）
- ▶ 日程：2026年8月17日（月）13:00～18:00（終了後 意見交換会）
- ▶ 場所：大阪公立大学 森之宮キャンパス3階講堂（オンライン同時配信）
- ▶ 参加者：学内外の大学教職員、企業関係者等

参加者計 **395名**

うち学外者

232名

大学等137名・企業等95名
（大学別内訳はP.2）

【当日フライヤー】



OMU開学5年目記念イベント

大阪公立大学の研究力 2026

～未来への飛躍と新たな成長～

第1弾 大阪公立大学研究基盤シンポジウム

OMU 研究基盤の現在地と未来

ー共用機器と産学官連携が拓く次世代研究環境ー

日時 2026年 **8月17日**（月）13:00～（終了後 意見交換会）

会場 オンライン同時配信あり
大阪公立大学 森之宮キャンパス 3階講堂

アクセス



<https://www.omu.ac.jp/about/campus/morinomiya/>

時間	プログラム
13:00	開会あいさつ 公立大学法人大阪 理事長 福島伸一氏
13:05	来賓祝辞
13:10	基調講演① 「全国の研究者が挑戦できる魅力的な研究環境の実現に向けて」 文部科学省 科学技術・学術政策局 参事官（研究環境担当） 馬場大輔 氏
13:40	基調講演② 「研究基盤革新元年～日本全体を“1つの巨大なラボ”へ～」 （一社）研究基盤協議会 代表理事・会長 東京科学大学 理事特別補佐（総合戦略・人事システム担当）、戦略本部 教授 江端新吾 氏
14:10	講演 「大阪公立大学の研究基盤経営改革 ーOShaRE・Omu-Rの開設と目指す未来ー」 大阪公立大学理事・副学長／株式会社 大阪公立大学リサーチ 代表取締役社長 徳永文穂 氏
14:30	休憩
14:40	挨拶 「新たな知識創造と課題解決の時代に向けて」 株式会社 日立ハイテク コアテックノロジー&ソリューション事業統括本部 エグゼクティブアドバイザー 未来社会創造事業共通基盤領域運営統括 共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)第2領域 P O 地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)サポーター 内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)プログラム 統括チーム統括代理 長我部信行 氏 機器メーカーによる講演、大阪公立大学とのβ機開発について 大塚電子(株)×大阪公立大学 飯田琢也 氏／(株)島津製作所／日本電子(株)／(株)日立ハイテク／(株)堀場製作所／(株)リガク×大阪公立大学 木下晋富 氏
16:10	休憩
16:20	パネルディスカッション テーマ：「3大学共用研究基盤の新展開」 パネリスト： 文部科学省 科学技術・学術政策局 参事官（研究環境担当） 馬場大輔 氏 横浜市立大学 理事・副学長 稲葉裕 氏／コアファシリティ部門長 浅野謙一 氏 名古屋市立大学 理事・副学長 今泉祐治 氏／共用機器センター長 加藤洋一 氏 大阪公立大学 理事・副学長 徳永文穂 氏／共用研究機器センター長 森茂生 氏 モデレーター：研究基盤協議会 代表理事・会長、東京科学大学 理事特別補佐（総合戦略・人事システム担当） 江端新吾 氏
17:10	閉会あいさつ 大阪公立大学 学長 櫻木弘之 氏

終了後 意見交換会 12階 SMBCスカイラウンジ（食事とお飲み物を用意しております※）

対面・オンライン 共通参加申込フォーム

<https://forms.office.com/r/kMVs5cM9KA>
※意見交換会の参加は会費5,000円/人いただきます。
（現金のみ）



申込締切

対面参加・意見交換会： **8月12日（水）**
オンライン参加： **8月13日（木）**

主催 大阪公立大学 共用研究機器センター（OShaRE）

「OShaRE（OMU Center for Shared Research Equipment）」とは、戦略的機器の一元管理と伴走型支援で研究を支える本学の研究インフラの中核を担う拠点です。研究資源を効果的に活用し、学内外の研究者が共同利用できる環境を整備することで、研究活動の活性化と産学官連携の加速に寄与することを目的としています。詳細はこちら<https://www.omu.ac.jp/oshare/>



「株式会社大阪公立大学リサーチ」とは、大学が研究成果や教育研究施設等の資源を効果的に社会へ還元すると共に、外部投資を呼び込みながら成長を図る経営モデルを実現することを目的として、公立大学法人大阪（大阪公立大学）が100%出資して設立した事業会社です。



【参加者内訳（学外・大学別）】

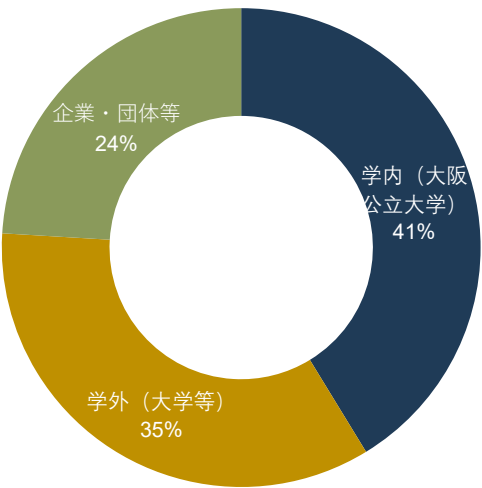
参加登録者数（重複申込を除く） **合計 395名（対面180名・オンライン215名）** / **学外者 232名**
うち大学等137名（45機関：大学43・研究機関2）、企業・団体等95名

学外からの参加者内訳（大学等・多い順）

横浜市立大学 22名	金沢大学 3名	東京大学 1名
名古屋市立大学 16名	和歌山県立医科大学 2名	東京海洋大学 1名
大阪大学 9名	大阪工業大学 2名	東海国立大学機構 1名
奈良県立医科大学 9名	東京都立大学 2名	東海大学 1名
長岡技術科学大学 8名	浜松医科大学 2名	桃山学院大学 1名
東北大学 5名	滋賀医科大学 2名	横浜国立大学 1名
奈良先端科学技術大学院大学 4名	鳥取大学 2名	琉球大学 1名
山口大学 4名	信州大学 1名	立命館大学 1名
東京科学大学 4名	名古屋工業大学 1名	茨城大学 1名
京都大学 3名	山梨大学 1名	近畿大学 1名
兵庫県立大学 3名	岐阜大学 1名	関西学院大学 1名
千葉大学 3名	広島大学 1名	関西福祉科学大学 1名
名古屋大学 3名	徳島大学 1名	静岡県立大学 1名
岡山大学 3名	愛知医科大学 1名	
神戸大学 3名	新潟大学 1名	

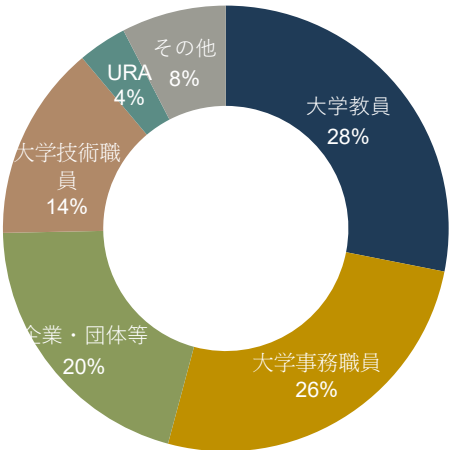
参加者の所属内訳

■ 学内（大阪公立大学） ■ 学外（大学等） ■ 企業・団体等



参加者の職種内訳

■ 大学教員 ■ 大学事務職員 ■ 企業・団体等
■ 大学技術職員 ■ URA ■ その他



開会あいさつ・来賓祝辞・祝電紹介

- ▶ 開会あいさつ：公立大学法人大阪 理事長 福島伸一 氏 —2022年の旧大阪府立大学・大阪市立大学統合から開学5年目を迎え、本年4月に共用研究機器センター（OShaRE）、7月末に公立大学初の大学法人出資100%の事業会社株式会社大阪公立大学リサーチ（Omu-R）を設立したことを報告。EPOCH採択を機に、研究基盤を大学全体の戦略的資産として再構築し、三大学連携により全国に開かれた基盤を提供していく方針を表明。
- ▶ 来賓祝辞（ビデオメッセージ）：内閣府科学技術・イノベーション推進事務局長 井上諭一 氏 —自身の海外経験を踏まえた日本の研究基盤整備の遅れへの問題意識を語りつつ、EPOCH採択三大学には自校整備にとどまらずオールジャパンへの研究基盤開放を求め、大学連携による日本の研究力「V字回復」への期待とシンポジウムの成功を祝った。
- ▶ 来賓祝辞：大阪府・大阪市副首都推進局 理事 辻本 氏 —設立団体を代表し、OShaRE・Omu-Rの設立を契機に、産学官の一層の連携強化が図られ、より多くの研究成果が社会に還元されていくことが、都市シンクタンク機能・技術インキュベーション機能の強化につながり、ひいては、大阪の成長・発展に寄与するとの期待が寄せられた。
- ▶ 祝電紹介：公立大学協会 田中マキ子会長 —EPOCH採択への祝意と、三大学連携による研究機器共用の取り組みが公立大学全体の発展に寄与するとの期待、公立大学初の出資法人設立が大学運営の新たなモデルとなることへの期待が寄せられた。



基調講演① 「全国の研究が挑戦できる魅力的な研究環境の実現に向けて」



講演者 馬場大輔 氏

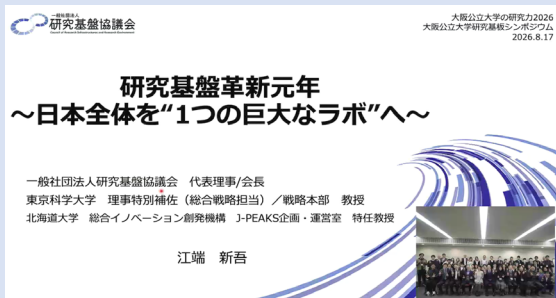
文部科学省 科学技術・学術政策局
参事官（研究環境担当）

（概要） 第7期科学技術・イノベーション基本計画や骨太の方針など政府全体の政策動向を踏まえ、研究力低下・研究開発投資の伸び悩みといった日本の課題を指摘した上で、「研究基盤」がこれまで政策の中心に据えられてこなかった状況が、今回ようやく変わりつつあると説明した。日英独等との比較調査を引きながら、日本の大学では研究時間の不足・支援人材の不足・老朽化した個別研究室単位の設備管理など、海外と比べた構造的な課題が根強いことを紹介し、これを変えるべく研究人材・研究資金に続き「研究環境」の刷新を掲げたのが今回のEPOCH事業であると位置づけた。EPOCHの狙いとして、単なる機器購入・共用効率化ではなく、技術支援人材の育成・確保を含めた持続可能な研究基盤運用体制の構築こそが重要であると強調した。

（参加者の主な感想）

- ✓ 馬場参事官の「新技術立国」を目指すという国を代表してのご発言は意義が大きいと感じました。コアファシリティは常識として大学に根差すことを期待しています。
- ✓ 技術職員の「流動化の促進」と「せっかく育成した技術職員の流出を防ぐ工夫」は相反する側面もあり、今後の技術職員政策やキャリアパスモデルにおいて重要な論点だと感じました。
- ✓ 日本の研究基盤の充実は本当に重要。特に技術職員の安定的な維持は難しいと感じており、よりよいキャリアアップの仕組みを作っていただけだと思います。

基調講演② 「研究基盤革新元年～日本全体を“1つの巨大なラボ”へ～」



講演者 江端新吾 氏

（一社）研究基盤協議会 代表理事・会長
／東京科学大学 理事特別補佐

（概要） 本年を「研究基盤革新元年」と位置づけ、研究者個人の努力に依存する時代から強靱な研究基盤で勝つ時代への転換を提言。研究基盤協議会の主な取り組み（全国規模の研究基盤ネットワーク構築、設備・人材・データの統合プラットフォーム、エビデンスに基づく研究基盤マネジメント）を紹介し、設備・人材・資金・データ・産学連携・広域連携の6要素を一体的に設計することの重要性を説明。東京科学大学のTCカレッジとの連携（サテライト校構想）など、大阪公立大学との連携強化への期待も述べた。

（参加者の主な感想）

- ✓ 大学の枠を超えた研究基盤の構築の必要性がよくわかりました。一大学のためというより、わが国の研究力の発展のためにも成し遂げなければならない仕事だと感じます。
- ✓ どう連携させ、どう持続させるか。統合・推進するマネジメント人材の存在が必要だと感じました。
- ✓ 汎用的な共用機器の利用を支えるサポート人材と併せて、より専門性の高い先端機器を扱う高度な人材が活躍できる組織基盤の構築に期待しています。

講演 「大阪公立大学の研究基盤経営改革 ―OShaRE・Omu-Rの開設と目指す未来―



講演者 徳永文穂 氏

大阪公立大学 理事・副学長／
株式会社大阪公立大学リサーチ 代表取締役社長

（概要） 本学の共用研究機器センター「OShaRE」（193台の共用機器、専任教員5名、技術職員50名体制）の事業内容として、AIチャットボットによる機器検索支援、予約・請求システムの一元化、IP-KVMを用いた遠隔操作環境、機器メーカーとのベータ機共同開発、人材育成の5つの特徴を紹介した。あわせて公立大学として初の出資法人「Omu-R」の役割（研究基盤の学外利用促進、リスクリング事業、研究成果の社会実装支援）を説明し、機器利用収益を大学に還元して再投資する循環モデルを構築していると述べた。最後にEPOCH事業について、名古屋市立大学・横浜市立大学と連携し「基盤強化→地域展開→広域連携」の3段階で、公立大学型の循環型研究基盤の全国横展開を10年後の目標として目指すと締めくくった。

（参加者の主な感想）

- ✓ 予約システムのAIへ質問できるというのは他大学の装置利用へのハードルが下がり大変参考になりました。県外からの利用でも学内料金に近い形で利用できれば嬉しいです。
- ✓ 「研究設備・機器の共用推進に向けたガイドライン」を補足する料金設定の基本的な考え方が必要。原価計算では非現実的な額になりやすく、補助金活用機器の扱いも含め共通ルールが不可欠だと思います。
- ✓ 学外からの利用料が高額だと資金のない研究室には敷居が高いかもしれません。OMUとの共同研究として学内料金となるような仕組みがあると利用しやすくなると思いました。
- ✓ トライアル料金や若手支援など敷居の低いシステム、試料を渡すだけでオペレーションを委託できるサービスがあるとよいと思いました。
- ✓ 機器の利用だけでなく、その結果の考察やさらに検討を進めるための計測のアドバイスなど、伴走的な支援があるとありがたいです。

挨拶・機器メーカーによる講演／企業ブース出展



長我部信行氏
(株)日立ハイテク (挨拶)



飯田琢也氏
大塚電子(株)×大阪公立大学



(株)島津製作所
講演



日本電子(株)
講演



(株)日立ハイテク
講演



(株)堀場製作所
講演



木下誉富氏
(株)リガク×大阪公立大学



企業展示ブースの様子



（概要） 株式会社日立ハイテク 長我部信行氏は、日本企業の研究開発投資の伸び悩みに危機感を示し、大学のエンジニアリング力強化・データ標準化・人材育成の重要性を訴え、EPOCH事業への期待を述べた。続く機器メーカー6社講演では、島津製作所・日本電子・堀場製作所・日立ハイテクが各社の分析・計測機器や研究支援の取組みを紹介した。大塚電子とリガクは大阪公立大学教員との共同研究として、それぞれ光濃縮検査システムのβ機器（飯田拓也教授と共創）、次世代x線構造解析装置のβ機器（木下誉富教授と共創）の開発状況を発表した。あわせて講堂外の廊下には登壇6社による展示ブースが設けられ、休憩時間中に参加者が各社担当者へ直接質問・相談できる機会も提供された。

（参加者の主な感想）

- ✓ EDTがAMED/BINDSとの連携が実現すると大変に良いと思いました。
- ✓ 機器の紹介をオンラインなどで実施してほしい。各キャンパスに導入されている機器についても、定期的にオンラインセミナーや機器説明会を実施してほしい。阿倍野キャンパスの導入機器の紹介案内はよく配信がありますが、中百舌鳥キャンパスの導入機器紹介が少ないように感じます。
- ✓ シンポジウムの講演で関心を持った機器の案内、解説そして相談ができる人物が確実にいる状況はありがたい。
- ✓ 実際に使ってみたい装置があったので、検討してみます。

パネルディスカッション 「3大学共用研究基盤の新展開」



江端新吾 氏
(モデレーター)
研究基盤協議会 代表理事・会長



馬場大輔 氏
文部科学省 参事官



稲葉裕 氏
横浜市立大学 理事・副学長



浅野謙一 氏
横浜市立大学 コアファシリティ部門長



今泉祐治 氏
名古屋市立大学 理事・副学長



加藤洋一 氏
名古屋市立大学 共同機器センター長



徳永文稔 氏
大阪公立大学 理事・副学長



森茂生 氏
大阪公立大学 共用研究機器センター長



(概要) 冒頭、横浜市立大学・名古屋市立大学がそれぞれ自校のコアファシリティ構築の取り組みを紹介し、名古屋市立大学は文部科学省のコアファシリティ構築支援プログラム（令和3～7年度）による研究支援体制の構築と東海地区での地域連携を、横浜市立大学は医学系に強みを持つ大学特性を活かした臨床検体・データサイエンス分野の取り組みを説明した。その後、「大学で求める高度人材」「地域連携のポイント」「十年後の研究基盤の未来」の各テーマに沿い、各校がフリップに記入したキーワードをもとに議論を展開し、馬場参事官からも大阪公立大学の提案内容へのコメントを交えて意見交換が行われた。最後は、三大学連携を今後さらに近隣の私立大学や他の公立大学へ横展開していきたいとの展望で締めくくられた。

(参加者の主な感想)

- ✓ 三大学の機器を全て同じ方法で予約したり精算でき、技術支援もシームレスに相談でき、将来他の組織も参画できるような、開かれたシステムを構築してほしいです。
- ✓ 介入的サポートは原理的に必要。そのためにリスクとされるポジションと、その方々への対価は必須だと思います。日本には依頼する側もされる側も、その土壌が希薄かと感じます。
- ✓ 三拠点がそれぞれ特色を出すのか、ある程度統一した研究基盤を形成するのに関心を持ちました。特色を出すのであれば、リモートでの利用が整備されるとどの地域からでも利用しやすいと思いました。
- ✓ 広域にまたがる三大学がどのような連携を行うことでどのようなシナジー効果を生み出すのか、大変興味深いです。今後どのような具体的な取り組みを実行されていくのか、期待しております。

閉会あいさつ

▶ 閉会あいさつ：大阪公立大学 学長 櫻木弘之 氏 一本日の講演・パネルディスカッションを振り返り、登壇者・参加者への謝辞を述べた。EPOCH採択に至る三大学連携の経緯や自身の留学経験にも触れつつ、OShaRE・Omu-Rを核とした大学連携による研究基盤の社会開放を今後の大学経営の方向性として掲げ、閉会を宣言した。